

(課程博士・様式9)

愛知教育大学・静岡大学大学院教育学研究科

学位論文審査報告書

審査委員

審査委員長

稲毛正彦

委員

石川恭

委員

寺本至輔

委員

古田真司

委員

小川裕子

委員

委員

審査期間 令和2年5月22日から 令和2年7月13日

審査論文

健康情報の判断と選択に着目した健康情報リテラシー教育に関する研究

専攻 共同教科開発学専攻

氏名 森 慶恵

生年月日 昭和40年10月26日

提出日 令和2年5月15日

情報化社会が急速に進展する現代において、保健や健康に関する情報も巷にあふれている。しかし、それらのどれが信頼できて信頼できないのかを見分けることは難しい。学校における保健教育の分野では、児童生徒の将来にわたる「自らの健康を自ら守り保持していく」力の育成が求められているが、こうした健康に関する情報が信じるに足りるかどうかを適確に判断し、信頼できる情報に従って行動する力は、その根幹をなすものである。

本論文では、そうした児童生徒の健康情報の判断や選択に着目し、調査による緻密な分析と、実証的な研究による教育プログラムの開発を行い、この分野の授業開発に新たな礎となる成果を上げている。

本論文は第1章から第5章で構成されている。第1章ではこれまでの健康情報リテラシー教育を概観し、「批判的思考」と「科学的根拠に対する理解」の両面から、健康情報に対する「判断」の違いとその要因を課題として設定した。第2章では、主に中学生を対象とする調査研究によって、これまでの学校教育によって得られていない「保健分野の批判的思考力」の実態を明らかにした。第3章では、中学校における健康情報リテラシーをテーマとした教育を、段階的に内容を変更して3回の実践を行い、その効果の違いを検討している。第4章では、本論文の独創性を示す概念である「信念バイアスの修正」という概念を加えたあらたな教育モデルの提案と、その教育モデルに関する対照群を設けた介入実験の成果が述べられている。第5章では、第4章までの成果を踏まえて、新たな健康情報リテラシー教育のモデルを提案している。

本論文の特筆すべき点は、中学生に対する実証的研究を何度も繰り返して、教育内容を少しずつブラッシュアップしつつ、その効果が限定的であった理由を考察する中で、他の科学教育の分野で議論されている「信念バイアスの修正」という概念を取り入れて、新たな保健教育のモデルを提案している点である。多くの文献研究に基づく理論と、繰り返し行った実証実験というまさに理論と実践の往還が本論文の真骨頂であり、こうした内容は、教科開発学の論文としてふさわしいものである。

以上より、本論文は博士（教育学）の学位を授与するのにふさわしい内容であると認める。

(課程博士・様式11)

最終試験の結果の要旨及び審査委員 報告書

学籍番号	216D004	氏 名	森 慶恵
論 文 題 目	健康情報の判断と選択に着目した健康情報リテラシー教育に関する研究		
論文審査結果	合		
最終試験結果	合		
最終試験 審査委員	審査委員長 稲毛正彦 委員 石川恭 委員 寺本圭輔 委員 古田真司 委員 小川裕子		

(最終試験の結果の要旨、1,000 字程度)

最終試験は30分の研究内容の発表と、約1時間の審査委員との質疑応答によって行われた。発表では、論文の概要が第1章から第5章までの順で研究の概要が説明された。全体を通して、研究の枠組みや分析方法とその結果、理論と実証研究との関係などを丁寧に説明しており、分かりやすい発表であった。

続いて行われた質疑応答では、以下のような質問が委員から出された。

1) 第4章に記載された「健康情報判断力テスト」結果の解釈について、2) 健康情報リテラシー教育における「批判的思考力」の意味とその両者の関係について、3) 介入研究における対象者の特徴と今回の結果を一般化する際の課題について、4) 今回の研究を小学生に適用する際の問題点について、5) 第2章の結果で、批判的思考力に学年差がなかった理由について、6) 「信念バイアスの修正」という概念をこの教育モデルに取り入れようと考えた時期とその理由について

いずれの質問に対しても概ね適確に回答することができており、自らの論文の研究内容について深い理解があることが確認できた。

以上の点および別紙の「審査概評」で述べた点を合わせて、最終試験の結果は「合」と判定した。

審査委員長

稲毛正彦印